

グローバル化に対応した地域デザインを創造する地域創生リーダーの育成

6年間を見通した探究的な学びの過程

グローバルな視点からの探究

- ・留学生との交流
- ・海外フィールドワーク 等

海外交流アドバイザー

中学校時

- ・地域学習
- ・海外修学旅行
- ・大阪英語村研修

1年次

- 課題の設定
- 情報収集・整理
- フィールドワーク
- 実践・対話・探究
- 成果発表

2年次

- 課題の再設定
- フィールドワーク
- 地域創造案の策定
- 成果発表

3年次

- 地域創造案の改訂
- 地域デザイン策定
- 発表・提言・実践

地域に関する視点からの探究

- ・地域でのフィールドワーク
- 地域協働学習実施指導員

グローバルな視点を持ちながら、多文化共生の地域社会を創造する人物

身に付けるべき 資質・能力

体感力

対話力

探究力

提言力

探究課題の設定

学校や取り巻く地域、県の状況

探究課題

芸術

スポーツ

防災
・
環境

グローバル
化への対応

課題解決のための連携組織

学校と地域が協働するためのコンソーシアム

- ・育てる人物像の共有
- ・高等学校の取組みへの支援
- ・生徒の学びの評価

高松市

- ・危機管理
- ・観光交流

穴吹学園

- ・外国人への日本語教育 等

(株)スクルト

- ・企業イノベーション

高松北高校

【地域協働推進校】

県内唯一の
公立中高一貫教育校

高松工芸高校 デザイン科

【地域協働推進連携校】

地域デザインに関する学習がより進んでいる学科

香川大学創造工学部

- ・防災、危機管理
- ・イノベーション教育

県・県教委

県立高校
対象に地域連携や
探究的な学びを推
進する取
組み

ふりがな	かがわけんきょういくいいんかい	ふりがな	かがわけんりつたかまつきたこうとうがっこう
管理機関名	香川県教育委員会	学校名	香川県立高松北高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名, 代表者名

管理機関名：香川県教育委員会

代表者名：工代 祐司

(2) 学校名, 校長名, 研究を実施する学科

学校名：香川県立高松北高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：國木 健司

2 取組内容

地域人材育成に資する地域課題の解決等に向けた研究を中心とした教育課程の研究開発を、中高一貫教育校の特徴を生かしながら実施する。

本事業を通して、育成する地域人物像を、

- ① 地域の状況、伝統や文化を理解し、地域を大切に思い、それと同じように異文化や異なる価値観を尊重する人材
 - ② 身の回りや地域の課題に主体的に関わり、協働的に解決方法を探ることができる人材
 - ③ グローバルな視点を持ちながら、多文化共生の地域社会を創造する人材
- と定め、地域協働推進校で実施する『グローバル化に対応した地域デザインを創造する地域創生リーダーの育成』構想の下、以下のような探究の過程で、研究開発を進める。

- ・国内外でのフィールドワークや外国人との交流を通して、グローバルな視点を養うとともに、生徒自らがグローバル化の実態や地域の諸課題を「体感」しながら探究課題を設定する。
- ・その課題ごとに県内大学や専門学校、関係機関と連携し専門家や仲間との「対話」を通して情報を整理・分析する。
- ・専門高校の地域協働推進連携校での先進的な取組の成果を、探究の過程において地域協働推進校での取組に生かしていくことで、生徒の探究を質の高いものにしていく。
- ・地域協働推進校を中心として、地域の各種機関とコンソーシアムを形成し、生徒の学びの支援をするとともに、生徒の探究活動をルーブリックによる評価を行い、高度でより質の高い「探究」に改善していく。
- ・具体的かつ実効性のある地域創生デザインを描き関係機関に「提言」していく情報発信力や実践力を3年間かけて計画的に育成する。

探究課題は、香川県のインバウンドの増加率に見られるような急速な「グローバル化」に関する探究、「アート県」香川のリソースを最大限に生かすことができる「芸術」に関する探究、学校のコースにもある「スポーツ」に関する探究、南海トラフ地震の発生が予想されていることから「防災・環境」に関する探究を中心とする。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
香川県教育委員会	教育長 工代祐司
香川県立高松北高等学校	校長 國木健司
香川県立高松工芸高等学校（連携校）	校長 川井秀哉
香川大学創造工学部	学部長 長谷川修一

高松市総務局危機管理課 創造都市推進局 文化・観光・スポーツ部観光交流課	課長 三木 浩史
穴吹学園 穴吹ビジネスカレッジ	課長 黒田 秀幸
(株) スクルト	校長 篠原達司
	代表 村上モリロー

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

コンソーシアム構成員での最初の会合時に、地域から地域ビジョンを、推進校から育てたい生徒の資質・能力を説明してもらい、求める人材像と育てたい人物像を擦り合わせ、共有する。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

コンソーシアムは、学校と「育てる人材像」や、地域や学校でどのような学びを展開することがその人材を育てることになるのかを共有するとともに、生徒の学びの充実のために、情報を提供したり、学びを支援したりする。さらに、年3回の検討会議では、全体計画の策定や計画の修正、まとめを行う。また、ループリック評価表の項目についての検討も行う。

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

海外交流アドバイザーについては、旅行会社の担当者を、協力の都度、謝金を支払うという形で配置する。海外研修旅行の入札・業者決定後、アドバイザーとして任命する。海外のネットワークという点では、旅行会社が海外拠点を多く持ち、推進校の希望に応じて、海外での研修先や交流先をアレンジしてもらうことができると考えている。

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

地域協働学習実施支援員については、地域協働推進校の出身者で、同校の周辺のデザイン会社に勤めている方を指定する。同校出身者ということで、同校の立場と地域の立場の両方からの視点で、学校と地域を繋ぐ役割をはたしてくれると期待できる。また、勤務しているデザイン会社は、企業等が抱える課題解決の支援をしている会社であり、生徒の問いから課題解決の過程において、多くの示唆を得られると考えている。

(6) 運営指導委員会の体制

指定校における事業運営に関して専門的な指導や助言を行うことができるよう、大学教授や民間企業代表者、行政機関職員などで構成する運営指導委員会を設置し、当該委員会において、学校の企画や実践状況など全体を俯瞰したフィードバックを行い、事業の評価や改善点を学校に指摘するなど、より効果的な事業の管理運営を行う。

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

県内の地域協働推進校、SSH 指定校、香川版 SGH 校を対象にした協議会を県主催で開催し、情報共有を行うとともに、公開授業による他校教員の研修や、全県立高校への年次成果報告書の配付、研究成果報告会の一般公開、地域協働推進校や SSH 指定校、香川版 SGH 校の活動を伝える専用の Web ページを設置して利活用を行うなど、事業の成果を広く発信し、普及させていく。

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

人的支援としては、教員の加配措置を行うとともに、探究的な活動を率先できる教員を配置するなどして、推進校を支援する。また、香川県教育委員会事務局高校教育課の関係主任指導主事が同校の探究活動の各過程において、同校に出向き、支援をする。

物的支援としては、平成31年度中に、新たに、電子黒板2台、タブレットPC約50台、無線LAN設備を整備、併設の高松北中学校には、電子黒板9台、タブレットPC約100台、

無線LAN設備を整備する予定で、重点的に配備する。

また、県教育委員会が行っている、探究的な学びやイノベーション教育の一環である、「東京イノベーションサマースクール香川プログラム」や「瀬戸内アートサマープログラム」に推進校の生徒を積極的に受け入れ、高度な探究的な学びを経験させる。

年度末には、「香川県高校生探究発表会」を開催し、文理を問わず、1年間で行ってきた探究成果を発表し、議論しあう場を設定する。

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

地域と協働して探究的な学びを実現する学校の取組を支援する事業を新設し、地域協働学習実施支援員を、推進校に継続的に配置するとともに、他校にも導入準備をする。また、海外交流アドバイザーについては、推進校だけではなく、全県立高校向けにサポートできるように枠組みを変更する。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	かがわけんりつたかまつきたこうとうがっこう				②所在都道府県	香川県
2019～2021	①学校名	香川県立高松北高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全日制課程普通科 在籍者総数 696名 (併設する高松北中学校 328名)	
普通科	229	234	233	—	696		
⑥研究開発構想名	グローバル化に対応した地域デザインを創造する地域創生リーダーの育成						
⑦研究開発の概要	芸術やスポーツの分野をはじめとする地域の課題の解消に向けた地域デザインの構想力・提言力を育み、生徒自らが主体的に地域と連携しながら地域活性化実現の原動力となるとともに、グローバルな視野を持ち、多文化共生の地域社会を創造する地域創生リーダーを育成する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標					
		<p>人口減少や高齢化、急速なグローバル化など時代の急変に伴う諸課題を発見し、新たな地域創生の方策について自ら構想・探究・創造するとともに、諸課題解決のために主体的に行動できる人物を地域創生リーダーと位置づけ、その育成を目的とする。その達成に向けて、国内外でのフィールドワークや外国人との交流を通して、生徒自らがグローバル化の実態や地域の諸課題を「体感」しながら探究課題を設定し、その課題ごとに県内大学や専門学校、関係機関と連携し専門家や仲間との「対話」を通して情報を整理・分析するなど、高度でより深い「探究」力を育むとともに、具体的かつ実効性のある地域創生デザインを描く企画立案力や関係機関に「提言」していく情報発信力や実践力を3年間かけて計画的に育成する。</p>					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					
		<p>本校は併設型中高一貫教育校であり、生徒の約半数は中学校時代から地域でのフィールドワーク等を通して、地域の文化や芸術、産業の特徴等を学習している。また、出前講座や英検全員受験の奨励、英語スピーチコンテストへの参加等でグローバルな視野を有する生徒も多い。高校では、カナダ語学研修や韓国英語村研修、留学生との交流会、台湾修学旅行などを経験し、外国人との交流に積極的な生徒も多く、国内代表選手として世界大会で活躍する運動部の生徒も多い。一方、高校1年時に夢を語るコンテスト、2年次にはディベート大会を行い、情報発信能力や課題解決力の育成も図っている。また、生徒会や多くの文化部が地域連携事業で活躍しており、地域貢献の意欲が高い生徒も多い。</p> <p>このように、グローバルな視野を有する生徒や情報発信力に秀でた生徒、地域貢献に強い意欲を持つ生徒など、個性豊かな人材を育成している反面、それらを有機的に結び付け、課題発見から探究、実践に至る総合力を育む取組みは不十分と言わざるを得ない。</p> <p>【仮説1】主体的に地域のグローバル化に対応した諸課題を「体感」し、大学や産業界・関係機関と連携したフィールドワークや情報収集活動を行うことによって、課題を発見し解決方を「探究」する強い意欲を持った生徒を育成できるのではないか。</p> <p>【仮説2】大学・関係機関等の専門家やグループの仲間、先進的な取組みを行う他校生徒などとの積極的な「対話」による探究活動を充実させることで、探究内容がより深化し、地方創生施策の企画力や、主体的に「提言」していく力を育成できるのではないか。</p> <p>【仮説3】コンソーシアムや関係機関、地域協働学習実施支援員と連携し総合的に探究し、多面的に評価することで、生徒が主体的に実践しようとする意欲と行動力を育成できるのではないか。</p>					

(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

ア 実施内容及び実施方法

- ①グローバル化の探究：欧米諸国やアジア諸国での海外研修，留学生や技能実習生，観光客等との交流活動等を通して，グローバル化に伴う新たな地域課題に関する探究を行い，外国人のための生活環境の整備やグローバル化を意識した地域創生デザインを企画書にまとめて関係機関に提言し，自らにぎわいづくりを実践する。
- ②芸術・スポーツ関係の探究：県や市が進める芸術・スポーツ関係の国際的なイベントや新たな施設整備に関し，周辺地域を含めた有効活用や地域活性化の取組みについて，岡山県や静岡県，スペインなど国内外の先進地域での調査研究をもとに，企画立案して関係機関等に提言し，新たな地域活性化の取組みを自ら実践する。
- ③防災・環境関係の探究：大学や高松市の研究施設での探究活動を通して，外国人も含む地域住民のための安心・安全な町づくりを企画書にまとめて関係機関に提言するとともに，生徒自身でできることを実践する。
- ④英語の授業におけるコミュニケーション能力の育成
コミュニケーション英語の授業においてスピーチを継続的に実施したり，英語表現Ⅱの授業において英語によるディベートを実施したりする。

イ スケジュール

- 【1年次】基礎的な探究力・表現力育成を目標とし，生徒の興味関心に応じて各クラスを5人程度ずつ課題研究班に分け，「総合的な探究の時間」及び教科「情報」において，地域のグローバル化の実態や探究課題に関する情報収集を行う。長期休業中には，県内在住の外国人や観光客への聞き取り調査，国内外の先進地の実態調査を行い，研究成果をまとめる。年度末には，各クラス・グループ対抗の成果発表会を行う。
- 【2年次】1年次の成果をもとに，5人程度ずつの文理の枠を超えた探究活動班に再編成して探究テーマを設定し，「総合的な探究の時間」や選択科目において，現地調査や探究活動を行いながら，班ごとに地域振興企画書をまとめる。また，2年次の「地理A」，「スポーツⅡ」，「美術Ⅱ」，「異文化理解」及び「英語表現Ⅱ」では，知識・理解力を高めるとともに，体感力や探究力，表現力を高めて，提言・実践内容のレベルアップを図る。年度末にはテーマ別に英語又は日本語による地域デザインコンクール（課題別発表会）を行う。
- 【3年次】2年次までの探究成果を踏まえ，各探究班が地域デザインをまとめ，これまでの探究過程で連携してきた県や高松市，大学，関連産業などの関係機関に提言したり，各種イベントの開催や観光パンフレットの作成・配布など，実践可能な新たなにぎわいづくりを実践する。

ウ 地域協働推進連携校との連携

年度当初に，地域協働推進連携校と探究活動の進め方等の情報共有を行うとともに，年に数回探究活動の進捗について打ち合わせを行う。また，年度末には，一年間の連携に関しての総括を行い，次年度への改善に繋げる。これまで「課題研究」で実施してきた探究活動の成果を生かし，地域協働推進校の探究活動に対する指導・助言を行う。

また，コンソーシアムを構築して行う今回の地域協働推進校の取組みでの成果を，地域協働推進連携校に還元していく。合同開催する成果発表会では，連携校に研究開発内容に関する審査の一翼を担ってもらう。

	<p>エ 併設中学校との連携</p> <p>県内唯一の公立中高一貫教育校の強みを生かし、6年間を見通した地域に関する探究活動及びグローバルな視点の育成に取り組む。中学校では、地域に関わる学習や大阪英語村への訪問等のグローバル研修を行う。高校の年度末の成果発表会に、中学生を参加させ、高校生の発表への質疑応答の場面を設定することで、中学生にさらなるグローバルな視点を養ったり、地域課題への気づきをもたらす。また、中高一貫教育校における6年間を見通した「探究的な活動」の学びの継続は、中学校と高等学校との校種間接続という点においても、中学校における指導状況の的確な把握につながり、今後の高等学校における探究活動の内容の充実に寄与する。</p> <p>オ 検証評価</p> <p>(ア) コンソーシアムを構成する関係機関の代表者を評価委員とし、コンソーシアムが策定するルーブリック評価表で成果目標の指標を明確に設定し、客観性を担保する。また、検証評価は成果発表会における審査や、学期ごとの評価検討委員会で行う。</p> <p>(イ) 生徒が実践したにぎわいづくりやおもてなしの内容について、関係機関の職員だけでなく外国人居住者や観光客を対象にアンケート調査による評価を行う。</p> <p>(ウ) HOPE というスピーキングのパフォーマンステストを実施する。また、4技能を測る外部試験を活用し、英語力の状況の評価する。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>校長・教頭・主幹教諭・教諭7名からなる「グローバル委員会」を中心としてコンソーシアムの計画・運営、外部の関係機関との連携、年間スケジュールの調整、進捗管理等を行う。グローバル委員会の指導のもとで、各学年団の主任、担任及び情報担当教員を構成員とする「探究委員会」が授業やフィールドワーク等での探究活動を指導する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>
<p>⑨その他特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「アジア高校生架け橋プロジェクト」を活用して外国人留学生を受け入れ、同留学生と一緒に授業や探究活動を行うとともに、部活動での異文化交流やフィールドワークでの協働学習を行う。 ・高松市牟礼町と姉妹都市である米国エルバートン市からの派遣高校生のホームステイ事業と当該生徒との交流会を充実させる。次年度からは、合同での授業実施や部活動を通じた異文化交流を行う。 ・運動部、文化部の活動の中でも、それぞれ専門性を生かした芸術・スポーツ関係施設の有効活用や地域振興に関する調査・探究を行い、大会・行事等の運営や実践に携わる。 ・2年後を目途に、台湾や韓国の高校と姉妹校提携を結んで定期的に交流を行い、合同での授業実施や部活動を通じた異文化交流を行う。